

令和 8 年 3 月 4 日

◆鈴木ひでし委員

私のほうからは 2 点ほどお聞きしたいと思います。

最初ですが、水害被害想定調査について、たしか昨年 6 月でしょうか、この委員会でもって、今は雪、これからもう間もなく春が来て、夏になれば台風だ、やれ大雨だということで皆様も大変に忙しい時期を迎えるかと思いますが、その中で、風水害の被害のシミュレーションをしたらどうなのかということで提言させていただきました。私の記憶が合っていれば、昨年の 12 月に本委員会でも水害被害想定調査の実施を検討すると担当の課長さんから言っていて、そして、今回、今定例会に提出された予算案では、これは多分予算化されたとは一応見させていただきました。

その中で、ある意味でこの調査自体が、私が調べてみたら、各都道府県では、まだいまだにやったことがなくて、大変先進的な取組をしてくださるということで感謝申し上げますけれども、その観点からちょっと何点か確認をさせてください。

まず第 1 点、初めに当初予算案に計上されている水害被害想定調査の概要について、もう一度確認させてください。

◎危機管理防災課長

水害被害想定調査は、神奈川県内の市町村のハザードマップの基となっております水防法による洪水浸水想定区域の対象河川全てを調査対象としまして、浸水地域の人口、その内数として要配慮者の数を推定したいと考えております。

また、建物被害としましては、全壊棟数、半壊棟数、床上、床下の浸水棟数の推計のほか、人的被害としましては、建物の倒壊、流出、浸水による被災者の推計、さらに避難者の推計におきましては、要配慮者、在宅避難者、さらには車中泊避難者などの推計も行いたいと考えております。そのほかに浸水地域内避難所の被災の程度であったり、県立高校、県立公園の被災の程度の推計もしたいと考えております。

◆鈴木ひでし委員

何か質問で、県立高校のことも色々聞いたものだから、幅広に対応してくださってありがたいというふうに思います。

その中で、当然実施に当たっては避難対策の主体となる市町村との連携が大変に重要になってくると同時に、果たして受け入れてくださるか、これだけの幅広のデータを収集するわけですから。それについては、市町村とどのように調整していくのか。

◎危機管理防災課長

令和 8 年度の当初予算案の記者発表を受けまして開催しました県内の全市町村を構成員とします県・市町村くらし安全防災主管課長会議におきまして、調査

の趣旨や目的などを説明しました。市町村からは、調査を期待する声も聞かれました。

予算の議決を頂きましたら、地震被害想定調査と同様に、固定資産税台帳などの調査のための基礎データ、これを提供するなどの協力を依頼していきたいと考えております。

さらに、国、気象台、県内市町村も参加し、水害の軽減に資する取組を総合かつ一体的に推進するための会議体であります神奈川県大規模氾濫減災協議会、これを活用しまして御意見を伺いながら、丁寧に対応を進めてまいりたいと考えております。

◆鈴木ひでし委員

その何とか主管会議とかというのだって、もう一つ何か協議会とかあったので、ちょっと簡単に教えてください。

◎危機管理防災課長

県内全ての市町村を構成員とします県・市町村くらし安全防災主管課長会議というのは、くらし安全防災に係る課題とか議題を定めまして情報共有したり、意見交換を行う場でございます、通常年に2回開催しております。

一方の神奈川県大規模氾濫減災協議会というのは、構成員として県、市町村、気象台、さらに国の国交省関東地方整備局なども構成員としました会議体でございます、主に情報交換の場でございます。その会議体に今回の被害想定調査をやるということを報告させていただいて、意見交換を行いたいと考えております。

◆鈴木ひでし委員

もう一点お願いしたい、お聞きしたいのは、よく地震被害想定なんかを私見ている、基本的には県としては冬の18時ということで書いてあるけれども、災害そのものの自体が、私は基本的に朝昼夜って、全部被害想定って違うじゃないですか。例えば3.11ももしあれ真夜中だったら、失礼ですが、大変な惨事になっていただろうと私は思うわけです。

その中で見たのは、どうせ今回のでやったださるんであるならば、こういう何か時間を例えば決めたようなモデルではなくて、願わくば24時間とは申しませんが、そのぐらいの、一応何か県民の方々に知らしめていくことってすごく大事だと思うんですよ。いろんな、例えば講演なんかも聞いて、私自身もやらせていただくんですが、どうしても昼間だったりして、夜になると、またがらっと話は違ってくる。この観点からどのような形でこれ、かみ砕いてくださるか、御答弁いただけますか。

◎危機管理防災課長

まず、被害を推計する時間につきましては、委員おっしゃるとおり、夜と朝では全く被害の様相も異なってくるために、発災の時間につきましては、最低でも朝と夜など複数の時間帯で推計したいと考えております。

また、発災直後であったり、あと、1日後であったり、例えば1週間後などの避難者数の推移なども推計したいと考えております。

時期につきましては、台風や梅雨により川の水位が高くなりやすい出水期を想定しておりますが、過去の豪雨であったり、台風などの被害の状況を分析して、対象の時期というのを特定してまいりたいと考えております。

◆鈴木ひでし委員

仮にやるに、じゃ、どういう推移をするのか、どのような形でやられるのか、私、本来ならもうちょっとお聞きしたいところですが、深掘りすればするほど、また聞くことも多くなるでしょうから、ぜひともお願いしたいと思います。

これは特に今課長おっしゃった推移というのは、すごく大事だと私は思っております、やはり一度災害に遭えば今後どうなるのかというところに、2次、3次っていろんな時期を経て、当然身の回りも変わってくる。また、人間自体の体も、最後はやっぱり心というところに行くところがあるわけがございますから、それについて、またお願いしたいというふうに思います。

12月の委員会の質疑では、水防災戦略の改正素案に水害被害想定調査の記載がないことを私がお話をさせていただいて、これは一応対応するというようなお話でございましたが、どのような形で対応されるのか。

◎危機管理防災課長

水防災戦略につきましては、今後の風水害対策を推進していく上で県が取り組むべき重点的な取組を位置づけた戦略であることを踏まえまして、災害対応力の充実・強化に向けたソフト対策の避難対策の強化の項目に取組のことを記載してございます。

具体的には、水害を伴う被害の規模などをあらかじめ把握し、適切な避難対策につなげられるよう、浸水地域人口などをまとめた被害想定調査の実施について、こういうことを改定案のほうに盛り込ませていただいております。

◆鈴木ひでし委員

やっぱり水防災戦略の中にはしっかりとした避難もひっくるめた、そういうことを入れておくべきだろうと私も思ったものであるので、質疑をさせていただきました。

私、この質問の最後に、これは私からの提案というかお願いでございしますが、水害の被害想定になるとどうしても、何というんですか、私が今まで見た、いろいろマップ等々配られていますよね。すると、やっぱり各地域、地域の要するにマップになっていて、例えば、それはある意味で市町村をまたいでいたりすると、これうちのほうは入っていません。隣から入れなければ、そういうものが見れない。ところがある意味、じゃ、逆に、そんな二つも三つも買おうということはないでしょうけれども、またぐところがやはり曖昧だったりすると、これ被害というのは意外と全然違うところから来るということ、じゃ、ハザードマップを見たときに、そういうふうに思ったわけです。え、こんなところまで来るのというものを見たときに、私はこの際、どうせここまで踏み込んでくださるんである

ならば、やはり神奈川県として、やはり県民が、どんと神奈川県全体を俯瞰して見れるような形での地図というのを作っていただいて、あと、先ほど課長がおっしゃってくださったどれぐらいの避難があつて、どのような例えば、人数になってというようにところまで入れられるかどうか分かりませんが、やはりそれは一目で見れる、また一級河川から、それこそ中小の河川まであるわけですが、これ、ある意味でとてもこれから大事になってくる。また、今年も大変なやっぱり大雨になる可能性もあるというふうにメディアを通して見たわけですが、このところいかがですか。ぜひともお願いしたいと思いますが。

◎危機管理防災課長

現在、県には防災対策図というのがございまして、これ警察とか消防など防災関係機関に配付と共有をしております、応急対応に活用していただいております。

また、県の災害対策本部におきまして、県全体の災害対応の対象方針というのを定める際の決定する上での重要な資料がございまして、委員の御指摘を踏まえまして、水害における避難対策を進める上で、県内全域の水害被害想定調査結果などを一元化した地図というのを作成することにつきましては、やはり県民の皆様が俯瞰して把握できるように改善していくためには非常に効果的な取組であると認識しているところでございます。

このため、実効性のある防災対策図の作成に向けまして、今後、被害想定調査の結果をどのように地図なりに落とし込んでいくのかなど、県民の皆様の利便性の向上につながるのか、そういったことなども検討しながら、地図の作成とか成果を図っていきたいと考えております。

◆鈴木ひでし委員

昨年なんか見えて、浸水があつても、やはりそこがどこまで行って、市町村のやっぱり図とかハザードマップってどうしてもまもなく来るとか、区とかなんとかって市町村境になっていく主体って、これとても、私、おかしいんじゃないのと思っていたものですから、そういう意味ではぜひとも、大変に重たい作業になるかと思いますが、やっぱり俯瞰して見られるというものというのは必ず大事だと思いますので、ぜひともお願いしたいと思います。

もう一個、ちょうど私が一般質問で、ちょうど石川にお邪魔をしまして、石川県のいろんなこと、1.5次避難所、2次避難所等もひっくるめて、大変に掌握が災害の際に大変だったというお話をお聞きしたことを直接知事のほうにぶつけさせていただいて、知事からは、LINEを活用した被害者の把握の仕組みをしっかりとつくっていくというような答弁がありました。

今日は本当に短時間で結構でございますので、まず初めに、LINEを活用した避難者の仕組みの実証について、現時点で具体的な事業と目的等々、進め方についてお願いしたいと思います。

◎防災企画担当課長

県の地震被害想定調査では最大で 235 万人を超えるような避難者が発生するということで想定をしております。避難の形態に関しましても、避難所や自宅、車中泊など様々な形が考えられるというふうに考えております。

こうした避難者に対して適切な支援を行っていくためには、効率的に避難者の所在ですとかニーズを把握、管理できる仕組み、そういうものを用意していくとともに、どのような支援につなげていくのかを検討して、支援スキームを確立することというのは非常に重要だというふうに考えておりまして、それを考えていくに当たり、今回、実証事業ということで行うことというふうに考えているところです。

また、実証事業の進め方ですが、避難者を効率的に把握するためには多くの県民の皆様が使用する、やはり慣れている L I N E を活用していくのがいいのではないかと考えていまして、L I N E を使った仕組みで避難者を把握できる、そういうようなものをベースに活用していくことを今考えているところです。

さらに、避難者の把握ですとか支援に関しましては、市町村でも当然行っている業務となりますので、令和 8 年度は御協力いただけるような市町村さん、今のところの予定でいくと 4 団体程度を考えているんですが、そういうところと連携しながら実証事業を進めていって、次年度にまたつなげていきたいと、そういうふう to 考えているところです。

◆鈴木ひでし委員

石川県で私もお聞きしたのは、やっぱり簡単に私たちは L I N E と言いますが、けれども、なかなかこの普及とか厳しかったというようなお話の中に、ただ一つ、石川県の県庁の職員さんがおっしゃっていたのは、やはり L I N E であると同居されている娘さんとか、また同居されている方々が L I N E を通じていろんな対応をしてくれて大変助かったということが数多くありましたというようなものがありました。そういう意味では、なかなか L I N E を使えないという方たちの部分というようなものも、やっぱりよく現場の市町村の方の御意見も聞いた上で、こちら側は L I N E と言う、私もそうなんですが、それをどれだけフォローするかという視点というのは私、すごく大事だと思いますので、これひとつお願いをしたいというふうに思います。

今後、県としては、今 L I N E の話が出ましたけれども、避難対策の強化についてどのように取り組んでいくのか、御答弁ください。

◎防災企画担当課長

今後の避難対策の強化に向けてでございますが、近年の大規模災害では、発災直後の直接死の数というのを災害関連死が上回っているというケースが発生しているところが特徴としてあるかと考えておりまして、そのためには避難生活の環境改善が喫緊の課題だというふうに認識しております。

そのため、避難所に配備するトイレですとか物資の充実、改善、要配慮者や女性、子供に配慮した運営、あるいは衛生面の改善を図ることとともに、民

間事業者との災害時協定の充実なんかを図って、現在、県は取り組んでいるところです。

そうした中で、避難所内外にやっぱり点在する被災者のニーズを効率的に酌み取っていったって、行政などからの支援につなげていくということも大変重要だというふうに考えております。そこで、県としては、令和7年3月に改定しました地震防災戦略の重点プロジェクトとして避難対策の強化というのを掲げておりますので、そういうところ、避難者支援システムの実用化に向けた実証事業を行うことということを今回記載させていただいたところです。

今後は市町村と連携しながら、この実証事業を通じて多様な避難者への支援のスキームというのを構築していき、避難体制の強化を図っていきたいというふうに考えております。

◆鈴木ひでし委員

まとめてよろしくお願ひしたいと思ひます。

ただ、私、避難対策、避難対策とおっしゃる、さっきからLINEと言うんですが、私、現場の本当にハグの部分というのは物すごく大事だなというふうにしたのは、中越沖の地震でもって、私、小千谷に伺ったときでした。二つの地震を経て、私なんか見たら、あれって勉強になったことは、やはり中学校の体育館の中に大きなテレビを設置しましたと。何なのかって、情報がみんな入らない。体育館の中にガランとしたものが、実は1回目の地震のときには、それでみんなが情報に困って、何かテレビが映るようになって、みんな、すごくある意味でよかった。こんなこと考えたことないと。今はもうそれこそ皆さん、スマートフォンを持ってらっしゃるからあれですけども、当時なんかですとまだまだ固定電話があつて、わざわざ職員室まで行かなきゃならないのをジャックをちゃんをつくってみましたということを何か先行会派でも毎度、御答弁、御質問の中にもありましたけれども、やはりプロパンガスをきちっと入れていましたというような流れがあつたり、寒さに対して、また暑さに対してというようなこと。本当に見ていくと、避難所ほど重要なものはないと私は思ったものですので、ぜひとも、避難者もそうですが、避難所の対応について、よくまた市町村と御対応いただきながら、いつ来るか分からない地震に対してぜひとも対応方よろしくお願ひ申し上げたいと思ひます。